

# 遠隔授業を通じた地域連携実践における学生の学びと課題 (2020年度地域課題解決奨励金事業・地域連携活動費事業 報告)

天野 了一

キーワード：地域連携、アクティブ・ラーニング、PBL、まちづくり、ブログ

※本論は、地域課題解決奨励金規定9条に基づき、2020年度「地域課題解決奨励金」<sup>1</sup>の実施報告として、上梓するものである。

## 1. はじめに(天野)

四天王寺大学においては、建学の精神である「聖徳太子の仏教精神」の実践として、2013年より、「COCOROE プロジェクト」と称して、学部、学科、学年や授業の枠を超え、学生を育て、社会とつなぐための様々な取り組みを行っている。「地域連携COCOROEプロジェクト」はその中核となるプロジェクトの一つと位置付けられ、羽曳野市(2013年)・藤井寺市(2014年)との包括連携協定に基づき、まちづくり、商工、教育、福祉、インターンシップなど様々な分野での連携を具体化していくための取り組みが進んできた。将来、これら多様な分野で、受講した学生たちを、地域活動に先頭に立ち取り組むリーダーとして育成することを狙いとしている。

地域連携プロジェクトに多くの学生が参画することを目指し、地域活性化についての理論を学ぶとともに、市長やNPO関係者との意見交換や提案を行う「地域活性化概論」(2単位)と、地域を歩いて調査したり、インタビューや取材を行ったり、その成果を広報紙やパンフレット、インターネット媒体を作成する実践型の「地域連携インターンシップⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」(各2単位)を、全学部生が履修できる「共通教育科目」として2015年度から開講している。

2019年度からはカリキュラムとして「地域共創プログラム」がスタートした。地域活性化概論2単位を必修、実践演習を伴うインターンシップ科目の2単位を選択必修とし、関連選択科目として20単位、合計24単位を取得することにより、地域活性化について一定の学修と実践を行った証となるプログラム修了認定証明書を発行している。

地域連携プロジェクト発足以降の、各担当者の地域連携関係授業における一連の取り組みについては、本学「教育研究実践論集 第5号『本学における地域連携COCOROEプロジェクトの

---

<sup>1</sup> 2017年度から、地域の課題解決および活性化を図るため、教員が地域と連携した教育・研究活動や社会貢献に関する事業に取り組むにあたり、これを大学として組織的に奨励することにより、大学が有する知の拠点機能を充実させ、地域に貢献する実践的な人材育成や外部との相互交流を促進することを目的とする制度「地域課題解決奨励金」が制定された。1件につき上限10万円、1年間の活動費用(学生の交通費、活動費、謝金など)を補助するものである。

これまでの取り組みと今後の展望』<sup>2</sup>において、2017年度までの各学科、具体的活動、趣旨、成果、課題を担当者の分担で詳細に紹介している。

また、筆者（天野）が「地域課題解決奨励金」を活用し担当してきた、「地域連携インターシップⅢ、Ⅳ」の専門授業での取り組み、ブログ形式のホームページの作成内容や、それぞれの成果、学生の学び、反省について、2017年度前期から2018年度前期までの1年半の取り組み内容を「教育研究実践論集第7号『本学における地域連携COCOROEプロジェクトのこれまでの取り組みと今後の展望』<sup>3</sup>にて紹介している。様々な地域ボランティアを実施した成果や、反省事項、学生の学びや成長については、2017年度、2018年度の2年間の取り組みを、教育研究実践論集第8号『地域連携プロジェクトによる、まちづくり活動参加実践と教育における成果（地域課題解決奨励金事業 報告）』<sup>4</sup>において記録としてそれぞれまとめている。

さらに2019年度における様々な活動内容の記録と、継続実施している学生のブログメディアを通じた地域PRの具体内容は、教育研究実践論集第8号『まちづくり・インターネット広報による地域連携実践と学生の学び 2019年度地域課題解決奨励金事業・地域連携活動費事業 報告』<sup>5</sup>にまとめ公表している。それぞれの活動と成果の詳細はそちらを参照されたい。

本稿についてはそれらの続編となる2020年度版である。2020年度はコロナ禍により、夏学期は全面的にオンライン、冬学期については偶数、奇数方式の交互授業になった。多くのイベントが中止となり、外出を伴う活動そのものにも制限のかかる中で、地域課題解決奨励金を活用しながら試行錯誤の下で実施した、数件の学外活動の記録とブログやSNSなどのインターネットメディアを通じた遠隔を含む地域PRの具体的な内容教育上の成果、課題などを報告する。

## 2. 2020年度地域連携活動

### (1) コロナ禍における授業、地域活動

2020年の前期（夏学期）については、新型コロナウイルスの蔓延、緊急事態宣言の発令等により、全面的に対面授業が中止され、全てオンラインでの授業となった。また、地域で行われる各種の活動についても、夏学期のメインイベントとして新入生含めて多くの学生が参加し、地域活動への動機付けや今後の継続のきっかけになっていた、5月のゴールデンウィークに藤井寺市道明寺・石川河川敷で、道明寺まちづくり協議会によって主催される「道明寺歴史まつり」はじめ、すべてのイベントが中止になった。また冬学期についても、10月の藤井寺駅前でのハロウィンイベント「デラハロ」や、11月の峰塚公園での「まちマルシェ」など、多くの大

<sup>2</sup> 『本学における地域連携COCOROEプロジェクトのこれまでの取り組みと今後の展望』木村三千世・天野了一・伊藤 重男、隅田孝・津崎克彦・吉田祐一郎 四天王寺大学教育研究実践論集第5号 2018.3

<sup>3</sup> 『地域連携プロジェクトによる実践的教育活動とブログ作成について（地域課題解決奨励金事業 報告）』天野了一 四天王寺大学教育研究実践論集第7号 2019.3

<sup>4</sup> 『地域連携プロジェクトによる、まちづくり活動参加実践と教育における成果（地域課題解決奨励金事業 報告）』天野了一 四天王寺大学教育研究実践論集第8号 2019.9

<sup>5</sup> 『まちづくり・インターネット広報による地域連携実践と学生の学び（2019年度地域課題解決奨励金事業・地域連携活動費事業 報告）』天野了一 四天王寺大学教育研究実践論集第9号 2020.9

型イベントが残念ながら中止、延期になった。

藤井寺の公式キャラクターである「まなりくん<sup>6</sup>」の活動については、これまで全国イベントである「ゆるキャラグランプリ」はじめ、市内外の各地で、市公認のまちづくり NPO であり、筆者が副会長を務める「まなリンク協議会」を通じての活動を行ってきたが、コロナ感染防止の観点から、密閉空間で、着ぐるみを複数で着用する活動が衛生上無理であるとのことから実施できなかった。

このような状況下で学生、教員がボランティアとして 2020 年度、20 年 4 月から 21 年 3 月まで、現場で携わった活動、学外活動の一覧を【図表 1】に示す。

日程	内容	主催	予算別
2020. 10. 17	宮子屋 道明寺天満宮 平安貴族とべんがら染	まなリンク協議会	C
2020. 11. 2	いちじく収穫・農業体験	藤井農園	C
2020. 2. 02	辛國神社 星まつり燈火会	辛國神社	D
2020. 2. 17	宮子屋 道明寺天満宮 菅原道真公と梅酒づくり	まなリンク協議会	G
2020. 3. 28	ハレマチビヨリ（津堂城山古墳）	ハレマチフジイデラ	D

学生活動予算の出所：A 学外活動奨励金（該当なし） B 地域連携活動費（該当なし） C 地域課題解決奨励金 D 主催団体予算 E 教員個人研究費（該当なし） F 負担なし G 教員または学生の個人負担

（2）実施、参加できた地域連携活動

<道明寺天満宮 宮子屋>



<sup>6</sup> 藤井寺出身とされる奈良時代の遣唐使留学生、井真成（いのまなり）のスピリットが現代に蘇った、藤井寺の公式ご当地キャラクター。平成 17 年に活動開始。

「宮子屋」とは、「まなリンク協議会」が、道明寺天満宮で開催している一般向け文化教室である。神社＝宮を、歴史や文化に関する地域の学びの場にする、というコンセプトで、「寺子屋」の向こうを張ってネーミングされた。2015年に文化庁からの受託事業「古＝いにしえをリンクするプロジェクト」としてスタートし、現在は藤井寺市役所から協議会への補助金と、参加費収入を原資として行われており、2020年度は3回実施された。内容については、道明寺天満宮の南坊城光興宮司からの歴史や地域文化に関する大人向けの講義・講話に続き、家族で楽しめる歴史や文化に関するワークショップを、道明寺天満宮の結婚式場「天寿殿」にて実施するもので、回を重ねるごとにリピーターも増えるなど人気が高まっており、30名～40名の定員がすぐに予約で満席になっている。2020年度もコロナ禍ではあるが、市役所とも相談の上、2部制にするなど、感染防止対策と三密回避を行い、4回開催することができた。うち本学学生・教職員が、受付、準備、撤収、清掃、子供達のお世話などのボランティアとして10月17日の23回「べんがら染」、2月17日の25回「梅酒づくり」の運営と、当日のワークショップ体験に計2回参加した。(写真1-4)

＜藤井農園 いちじく収穫・農業体験＞

羽曳野市の特産である農産物として、ぶどう、いちじくが知られている。ぶどうが柏原から駒ヶ谷、上ノ太子などの丘陵斜面で栽培されるのに対し、いちじくについては、菅田・西浦。古市など平地エリアが中心である。都道府県別では、愛知、和歌山、兵庫に次いで第4位、エリアで多く栽培され、「柘井ドーフィン種」を中心に栽培されている。柔らかいため輸送や保存性が良くなく、羽曳野産は高級品として高価に取引されている。今回は、初の試みとして、いちじくの高付加価値化を目指し、ポットでのハウス溶液栽培などの新技術を導入、大阪 NO-1（のうワン）グランプリを受賞した若手起業家で、農業体験など、子どもや地域の人が農業に親しむための様々な取り組みをされており、菅田八幡宮近くにある藤井農園を訪問、藤井

写真5-8 藤井農園 農業体験



園主から羽曳野での農産物生産や高付加価値化の話を知るとともに、地域の方とともに、いちじくはじめ、白菜や人参、ズッキーニ、カブ、ジャガイモ、トマトなどの収穫に取り組んだ。都会育ちの学生たちにとって、生えている野菜を収穫するのは初体験であり、また、いちじくを食べたことのない学生もおり、体験的な学びが思い出になったとのことである。（写真5-8）

#### <辛國神社 星まつり燈火会>

藤井寺駅南側にある、辛國神社は、日本書紀に登場するスサノオノミコト、アメノコヤネノミコト、ニギハヤヒノミコトを祀った神社で、かつてこの地を治めていた物部氏の祭神である。境内から入ると、大阪みどりの百選にも選ばれた長い美しい参道がある。「まなリンク協議会」では、発足以来、毎年節分には開催される夜の祭りを、「星まつり燈火会」として同神社の伊藤進宮司の協力を得てプロデュースしており、観光的な要素や夜店がない荘厳、幽玄なお祭りとして、燈火の設置やライトアップを行なっている。本年度についても、本学学生の有志が数名ボランティアとして参加し、準備、案内、安全確保、撤収などのご奉仕を行なった。

写真 9-12 辛國神社燈火会でのボランティア



#### <FRAP ハレマチビヨリ>

FRAP (エフラップ) Fujiidera Wrapping Promotion とは、藤井寺市にある古くからの商店や、長い歴史をもった酒、お茶、和菓子、料亭などの老舗と、新しい感性を持った異業種の個人店や作家がお互いに協力しながら、ものづくりや食に関するアイデアや思いを深め、コンセプトを共有しながら新しい魅力を創造し、発信していくことで、魅力的なまちづくりをさら

に進めていく地方創生事業であり、2017年にスタートした。統一のイメージでのプロモーション、イベントの企画運営や、コラボ商品企画を行なっている。当初は、外部のコンサルタント「株式会社ランドブレイン」を事務局として藤井寺市からの補助金で実施していたが、3年間の補助金期間の満了により2020年度から「一般社団法人ハレマチフジデラ」として、独立採算化した。FRAPが2018年から、毎年一度、3月に実施している、世界遺産の津堂城山古墳の上で、参加店舗が出店し、様々な企画を行う最大のイベントが「ハレマチビヨリ」である。2020年3月については、コロナにより中止となったが、2021年3月28日実施の20年度については、規模を縮小し、入場者数を絞った上でなんとか行うことができた。藤井寺市役所観光課はじめ、飲食や雑貨など、新規参加店舗も含め、20ブースが出店を行った。本学では、公式な学生の募集は行わず、本学在学中からハレマチビヨリに参加してきた卒業生や天野ゼミ有志学生が自主的に運営ボランティアを行った。当日は午前中は天候が持ちこたえたものの、午後からは雨天になったが、紙飛行機大会の運営やお子様とのふれあい、お菓子配り、駐車場や駐輪場の交通整理、会場案内や交通整理、あと片付けや撤収作業にも学生たちが雨の中汗を流して活動、藤井寺市の岡田一樹市長からも激励をいただいた。

写真 13-18 FRAP ハレマチビヨリでのボランティア、紙飛行機大会



### 3. インターネット媒体での情報発信

#### (1) ブログ・WWWによる情報発信

2020年度冬学期については、「地域連携インターンシップⅣ」（履修生12名）の授業履修者をメインに「地域ブランド研究」（履修生14名）の学生も加わり、羽曳野や藤井寺を中心とした史跡や寺社、店舗等を取材し、紹介して発信していくことで、地域について学ぶことを内容とした。学籍番号の奇数偶数方式での授業となったため、基本は、隔週で学内パソコンルームでの作業と、現場取材等での実習を伴う課題を交互に行った。昨年に引き続き、本学の卒業生であり、在学時には本学の地域連携科目を中心にスチューデント・アシスタント（SA）として活動し、それを契機として2018年から現在まで、広告・広報会社「ジェイライン株式会社」に

【写真19】街ブラ企画 藤井寺のページ



【写真20】学生のブログ投稿記事

#### 藤井農園さんで農業体験イベントに参加！羽曳野名産：穫。

2020年11月04日15:43 ■ カテゴリ：イベント | 書入： 投稿

##### 藤井農園さんで農業体験イベントに参加！



羽曳野市農田にある、藤井農園さんで農業体験イベントに参加させていただきました。

羽曳野名産のいちじく他、トマト、白菜、ズッキーニ、じゃがいもなども収穫しました。

藤井農園は、大阪府羽曳野市の生産農家です。大阪唯一の生産量を持つ、羽曳野市の特産品である「いちじく」を栽培しています。

大阪で唯一いちじくのハウス加温栽培を行なっている農家で、美味しいいちじくを多くの人達に食べてもらいたい！農業を通して多くの人と繋がりたい、笑顔届けたい！という思いで農業を営んでいるらしいです。

美味しいイチジクを長い期間、お客様に味わってもらえるように、露地とハウスで生産しているそうです。

ほとんどの学生が野菜を育てているところははじめてみたいという、フルティカトマトの温室、じゃがいも畑など、とても貴重な経験でした。

人参を抜くときの音なども素晴らしいです！最後に皆でジャガイモを焼いてバターを塗って食べました。

持ち帰った野菜を持ち帰り、家族も美味しいと喜んでくれて嬉しかったです。

##### 当日の様子



て地域情報やインターネットメディアでのサイト作成、ライターとして活躍している、若手クリエイターの川本藍氏を特別講師として招聘し、記事投稿の技術や手法について学ぶとともに、同社の運営・企画する地域情報ポータルサイト「オオサカジン」と連携しながら情報提供を広く行い、実践的教育を実施したことが特徴である。

【写真 21】学生の投稿例（まちまるしえ）

**102 Doumyouji MilkTea&Coffee**  
2020年12月16日17:19 | カフェ | 食べ | カフェ | 楽しい

アジアチックなお店が賑々オープンします！



藤井寺市の道明寺天神商店街にオープンしたベトナムカフェ「102 Doumyouji MilkTea&Coffee」に行きました。

店主のインさんは、来日12年。前は、嵐山の田舎の建築士業で時給300円で1日12時間、月休み2日で年収3年〜！今般長年の夢が叶いこのお店をオープンされたとのことでした。

この通りには、すでにベトナム食材店がオープンされています。日々オーを出すレストランもオープン予定で、この商店街の雰囲気もアジアチックに変わってきていますね。

藤原の工業団地ではベトナムの人も多く働いていて、これらのお店を目当てに来そうな感じがします。



ドリアンとジャックフルーツのかき氷、コーンのライスペーパー焼き、ベトナム揚げ春巻きなどを食べました。

特に揚げ春巻きは、ミントの葉が独特のスパイス味がい、若者たちにも大好評。ドリアン・ジャックフルーツも、学生たちは初体験。個人的には好きなのですが、やはりちょっと口に合わないみたいで、一口食べて「???」という感じでした。(笑)

「102」は字がイロアトどれかを入れているそうなの、意味がわかりませんが、

【写真 22】学生の投稿例（店舗紹介）

コロナウイルスのせい  
102 Doumyouji MilkTea&Coffee  
持ち帰り  
ご協力お願いします

魚パン	
Bánh mỳ chả cá	500-
肉パン	
Bánh mỳ thịt	500-
肉もち	
Xôi xà xiu	500-
あげはるまき	
Nem rán	150-
ごま団子	
Bánh rán	100-
クビネオミルワティ	
Trà sữa	380-
cà phê	300-
レモン	
Trà chanh	250-

料理はこんな感じ！



ブログ作成を開始した2017年度、2018年度については、独自ブログ「「ふじい de Lovers のデラ充日記 (<https://ibu.osakazine.net/>)」として運営していた<sup>7</sup>が、授業期間、学期以外には学生はブログを投稿、更新しないため、教育、演習としての意味はあっても、一般向け情報としての利用価値、PR上の効果が少ないという問題があった。そこで、同社とも協議の上、学生の書いた記事を同社運営の公式サイト「街ブラ企画藤井寺」(写真19-21)に投稿という形に2019年度より変更した。この設置やサーバー運営管理、記事の転記やすり合わせ、学生の指導や講習費として、地域課題解決奨励金の約半額、55000円を活用している。昨年度にリニ

<sup>7</sup> 四天王寺大学教育研究実践論集第7号 2019.3『地域連携プロジェクトによる実践的教育活動とブログ作成について 地域課題解決奨励金事業 報告』を参照されたい。



ューアルした方法を踏襲し、ジェイライン株式会社の運営するポータルサイト「オオサカジン」(<http://osakazine.net>)<sup>8</sup>の地域別公式コンテンツのひとつである、「街ブラ企画・藤井寺」(<https://fujiidera.osakazine.net/>)へ掲載していく形であり、学生はFacebook 非公開ペー

【図表2】2020年度の学生・OBスタッフによるブログ記事		
掲載日	記事内容	場所・エリア
2021.2.17	「道明寺」のまちづくりがアツイ！	藤井寺・道明寺
2021.2.10	葛井寺と楠木正成 伝説の三葉松とは？	藤井寺・葛井寺
2021.2.4	驚きの値段 道の駅 しらとりの郷	羽曳野・羽曳が丘
2021.1.12	歴史神話ヒストリアに道明寺天満宮が	藤井寺・道明寺
2021.1.5	藤井寺市にてマンホールカード配布中	藤井寺・道明寺
2021.1.1	あけましておめでとうございます。	-
2020.12.25	誉田八幡宮	羽曳野・誉田
2020.12.26	道明寺 Milk Tea & coffee ベトナムカフェ	藤井寺・道明寺
2020.12.9	お正月まなりくんイラストダウンロード	藤井寺
2020.12.5	The Bake Store	羽曳野・伊賀
2020.11.26	観光難易度 A 級シティ フジイデラ	藤井寺
2020.11.22	イズミヤ古市近くの瑞鳥園遺跡・白鳥陵	羽曳野・古市
2020.11.09	南大阪のソウルフード「かすうどん」	羽曳野・向野
2020.11.04	藤井農園さんで農業体験イベント	羽曳野・誉田
2020.10.27	近鉄全線3日間フリーきっぷ発売！	-
2020.10.19	宮子屋 平安貴族のお話とべんがら染め	道明寺
2020.10.09	街の中に突然の船！アイセルシュラホール	藤井寺
2020.10.02	神社を横切る近鉄電車が！面白スポットがある藤井寺の神社仏閣巡り	藤井寺・澤田
2020.9.19	ハレマチビヨリミニ	藤井寺・イオン SC
2020.9.8	駅近！お散歩気分でご墳巡り	藤井寺・土師ノ里

<sup>8</sup> 「オオサカジン」(<http://osakazine.net>)とは、WEBソリューションやWEBマーケティングを事業内容とする「ジェイ・ライン株式会社（代表取締役：野上尚繁氏、本社大阪市、資本金1000万円）」による地域ポータルサイトである、'2006年に設置され、会員約10000人、ブログ数8500、月間150万PV、訪問者数約15万人を中心とする、地域密着型ブログサービスで、ブログを書く人も、読む人も、運営担当者も地元関係者であり、単なる情報提供に留まらず、人と人とを繋げることが特徴になっている。公式コンテンツとしては、セミナー、ワークショップ、サロン情報。お出かけ情報、グルメ情報や、人物紹介などである。地域密着型ブログポータルサイトの世界的ネットワークである、「Areaers(エリアーズ)」にもつながっている。エリアーズは、ITによる地方創生、地域活性化を掲げ、国内44カ所、海外6エリア、月間2億PV、会員数25万人の地域密着型サイト・ブログの全国ネットワークとなっている

ジにまず投稿、オオサカジン編集部の確認と修正を経て公開される。本学の学生が投稿しない授業期間以外については、川本氏を中心に取材や記事更新が随時続けられ、広く一般の供覧する地域情報サイト、コンテンツとしての価値を維持、発展させている。また、「街ブラ企画」全体では、藤井寺のほか、谷町、東成、万博記念公園、都島・京橋、中之島・住吉・粉浜などの各地域のブログが運用されており、地域情報ソースとして活発に投稿や閲覧がなされている。

2020年度の学生によるブログ記事を・掲載日 取材先・場所を【図表2】に示す。

(2) SNS (Facebook, Instagram, twitter) による情報発信

ブログ、WWWでの情報発信は、学生によってあまり馴染みがなく、アーカイブとしての意味はあっても、学生自身が情報源として実際に活用する機会もないことがわかってきた。そこで、今年度については、学生への授業のメインはブログ作成をメインにしつつ、Instagram や Facebook, twitter などの学生に馴染みやすい、スマホを中心とした SNS と並行しての情報発信について検討、試行してみた。ハッシュタグ#については、昨年までのブログで使ってきた #fujiidelovers から、藤井寺市公式で、知名度があり、利用者も多く、また市観光協会とも自動リンクできる #fujiidelike (フジイデライク) を利用することにした。



<Facebook>

現在では、ほとんどの学生が登録しておらず、アカウントを保有していない。学生にとって、SNSのメインは twitter、次いで instagram である。これはここ 5、6年の傾向であるが、基本的に実名登録であることや、投稿には写真や一言文章だけでは終わらず、相当な作文力や中身が必要であるため敬遠されている。学生には親世代や中高年、あるいは企業公式のものであるととらえられており、結果的に FB 上でのつながりもできにくい。そうした中で、この授業では

履修者全員を登録させ、指導教員、ジェイラインの川本担当も含めた、「グループ」機能での「四天王寺大学 地域連携グループ (非公開)」を作成し、そこに日々の投稿をメンバーが投稿していく形とした。ここはメンバー以外非公開であり、一般アクセスはPCからもスマホからもできない一方で、教員は書き込みの督促や写真、文章の事前チェックを行うことができる。また、これと企業向けの公式ページとして使われる「ページ」である、「四天王寺大学地域連携ニュース」を作成した。これは、Facebook 外からもメンバー以外の誰でも、ブラウザ上で見ることができ、「いいね」しておけば、タイムラインにも更新時に表示される仕組みになっている、(ただ、広告として多数に表示させるには費用がかかる)。ここに、「グループ」に投稿された原稿や写真を検証、不適切なものを修正して、転記し一般公開という流れとなる。

### <Instagram>

加工あるいは未加工の複数の写真と短文が、その場所 (チェックイン情報) や、ハッシュタグとともにスマホで気軽に投稿できるので、学生、特に女子学生に人気がある。履修生は、ほぼ全員アカウントを所有、投稿はしないが見ているだけという学生も男子学生には多い。アカウントについては複数名で共有することができ、パスワードを一度入れておくとその時々でアカウントを切り替えて使用することができる。一方で、アカウントとしては1つなので、複数名で共有して投稿する場合は、本文内に署名を入れない限りは誰が投稿したかはわからない。配信の浸透、ビューについては、アカウント自体のフォロワー数、記事の「いいね=♥」数で推測することが可能である。ハッシュタグ#をつけて、関連する内容や同じテーマの投稿を検索することができるので、それを通じてアクセス数を増やしていくことができる。今回は試験的に「ibu.chiiki」のアカウントを作成し、全員で相互フォローを行なった。

【写真 24】地域連携 Instagram {ibu.chiiki アカウント}	【写真 25】学生の投稿例
	

## <twitter,LINE>

twitter については、ほとんど全ての学生が日常の情報発信、収集手段として使用しており、本アカウント（本垢）のほか、裏垢、趣味垢、バイト垢、サークル垢など複数アカウントを使い分けている学生も多い。そのため匿名性があり、アカウント名だけでは誰か判明することが困難である。また、写真は添付可能であるが、ハッシュタグも含めて 140 字までの字数制限や、アカウントの複数名での共用ができないことなどから、オリジナル記事といった一次情報の提供には向かない。さらに、拡散性が高い一方で、不適切なものがリツイートされて拡散、炎上する可能性もある。個人個人の記事投稿ではなく、大学や地域に関する、Facebook ページ、ブログなどで既にかかれた記事を拡散するという手段としては、特にフォロワーの多い場合は意味があるかもしれない。また、教員が管理する地域連携専用の twitter カウントを取得し、地道にフォロワーを増やしていくことについては、学生の教育という視点では効果はないが、地域連携や情報拡散という意味では意味があるかもしれない。

LINE については、授業別の連絡用、写真等の交換用にグループを作成している。その際に、名前（ニックネーム）の表示を学籍番号と本名に変更しておくことで出欠整理や成績付けが容易となる。また、LINE のタイムライン投稿については一般に利用者がほとんどいないので、情報伝達ソースとしての利用はしていない。

## 4. むすび

コロナ禍の下実施してきた 2020 年度の地域連携に関する授業での取り組みについて、2 章で地域行事、まちづくりの現場への参画を、3 章でインターネットを通じての情報発信について紹介してきた。

地域連携インターンシップはじめ、筆者の授業では例年、様々な現場に自ら赴き体験的に地域を知り、整理し、発信するというプロセスを通じた PBL を目指し、それにより学生が大きく育つことを例年目の当たりにしてきたが、今回の授業については、現場での活動を行う機会が残念ながらほとんどできなかった。取材についても、地域のキーパーソンの紹介や、指導者の引率による見学などができておらず、また指示による半強制も不適当なことから、ほとんどが学生の自主的な活動に委ねるしかない状況となり、様々な活動を実施した昨年度、一昨年度に比べて<sup>9</sup>、学生が大きくモチベートされ成長したとはいえない状況である。昨年度以前の受講生は授業終了、単位取得後も様々な局面でボランティア精神を発揮し、協力、参画する姿勢を見せてくれたが、本年度の受講生の来年度には環境が整わないため例年と同じものを求めるのは酷と思う。

また、オンライン授業での、学生が日々利用している twitter やインスタグラムなどの SNS プラットフォームの活用、導入は、これまで取り組んできたブログよりも馴染みやすいのでは

---

<sup>9</sup> 2019 年度に実際に経験した 6 名の学生の声、成長の自己分析については、四天王寺大学教育研究実践論集第 8 号 『地域連携プロジェクトによる、まちづくり活動参加実践と教育における成果』に掲載しているので参照されたい。

と期待したが、育ててきた自分のアカウントに授業で取り組んでいる地域の情報などを配信することは抵抗があり、したくないとの声も多く、それはわからないでもない。実際に、授業終了後はどの学生も地域ブログや地域 SNS には投稿、コメント、いいね、アクセスを一切しなくなってしまう。また記事内容についても、インタビューやヒアリングを行わず、試食や購入さえも行わず、適当に調べた内容をアップしたような記事も目立った。

その意味でも、実際に現場に赴き、活動し、空気を吸い、多くの人の熱い思い、心意気に触れ、行動をみながら、自分も役割を担い、叱責や激励を受ける経験により、地域を自分自身のリアルな活動の舞台、人生のテーマであるにとらえさせることこそが重要であると考えられ、実践型授業を遠隔、オンライン授業で行うのは限界を感じる場所である。

受講者の地域についての学びと関心を深めることで、卒業後の地域への定着を推進するとともに、住民の地域との関係が希薄化、孤立、大資本による商業の寡占化、商店街の衰退、そして少子高齢化が進む中、地域の可能性の発見から新たな魅力を創出し、多様なイノベーションを起こしていく、若い将来のリーダーを育てたいという思いで、アフターコロナに希望を持ちつつ、今後も授業を工夫し進めていきたい。

## 謝辞

最後に、コロナ禍にもかかわらず、貴重な機会や、多様な情報を提供いただき、学生にご支援、励まし、お叱りを頂いた、藤井寺市長・市役所・商工会のスタッフ、NPO リーダーの方々、学生の取材を快く受け入れていただいた地域の店舗のみなさまに、この場をもって心から御礼申し上げたい。

※写真は全て筆者の撮影による。学生、関係者についてはイベント実施および撮影時に各種媒体への掲載を許諾済みである。

